

令和6年1月18日

子ども向け演劇実施業務  
ひよこまめ公演「またあした、きょうの音がきこえる」

# 報告書

# ひよこまめ公演 「またあした、きょうの音がきこえる」

日時 : 令和5年12月2日(土) 13時開演

12月3日(日) 13時開演

会場 : 丸亀市市民交流活動センター(マルタス) 2階キッズスペース

企画・出演 : 横関亜莉彩、高橋なつみ(劇団サラダボール所属)

監修 : 西村和宏

対象 : 小学生までのお子様と付き添いの方

料金 : 無料

# ひよこまめ 活動の目的

ユニット「ひよこまめ」は、香川県内で働きながらも、芸術活動の可能性を模索していく目的で結成された。それぞれの経験も活かしながらも、新たな表現の分野にも挑戦していきたい思いがあり、芸術文化に明るい人だけでなく、全くこれらのものに関わったことのない人も入りやすいよう、入口を拡げる役割の一助となりたいと考え、活動を続けている。

特に、演劇やダンス等の公演や活動を全く見たことがない人が、芸術文化に初めて触れるきっかけとなる糸口はどんなことが必要であるかを考え、芸術活動がより身近で、少なからず地域活性に役立つものの一つであると捉えてもらえるようなアプローチを今後も継続して試行する予定である。

芸術活動がより身近に感じられることで、老若男女問わずその場所へ気軽に立ち寄れる環境づくり、並びに芸術活動への興味関心をより多くの人に抱いてもらうことを目的とする。

# 企画意図

ユニット「ひよこまめ」として活動開始後、朗読劇を中心とした公演を数回行ってきた。回数を重ねるごとに、地域の方によりさまざまな形の公演を届けたいという思いが募り、また「ひよこまめ」としても新しいコンテンツ作成を目指し、今回の身体表現作品を企画。

身体表現作品を新たな挑戦とした背景には、朗読劇やワークショップで子どもたちと触れあう機会があり、子どもが芸術活動に触れる機会をより増やしたい思いが強まったことが大きく関係する。

子どもも楽しめるような、生活の中で耳にするオノマトペを用いて、音として聞く「聴覚的な刺激」から、目で見る「視覚的な刺激」を受け、ひとつの音から生み出されるさまざまな表現の変化や可能性に触れてもらう事で想像力を刺激し、子どもたちの持つ発想力の向上も目標としている。

また、作品の中で思い出される記憶が、一緒に見ている親御さん自身の記憶にリンクした場合、日々の何気ない生活に、何か気付きや彩りが増すエッセンスのひとつになるような、大人も楽しめる作品を目指す。

人々の日常生活と結びつきやすいテーマの作品を上演することにより、芸術活動がより身近なものとして捉えてもらえることを目標とする。

# 公演の内容

登場人物は2人の姉妹。2人で暮らす家のある朝の様子を、擬音語・擬態語（オノマトペ）（例：歯磨きをする『シャカシャカ』、飲み物を淹れる『コポポポ』など）とコンテンポラリーダンスの要素を取り入れながら描いていく。

朝の生活音や料理の様子など、身支度・仕草の中で発生する音・動作をオノマトペと身体表現を用いて、姉妹の起床から家を出るまでを描いた作品。

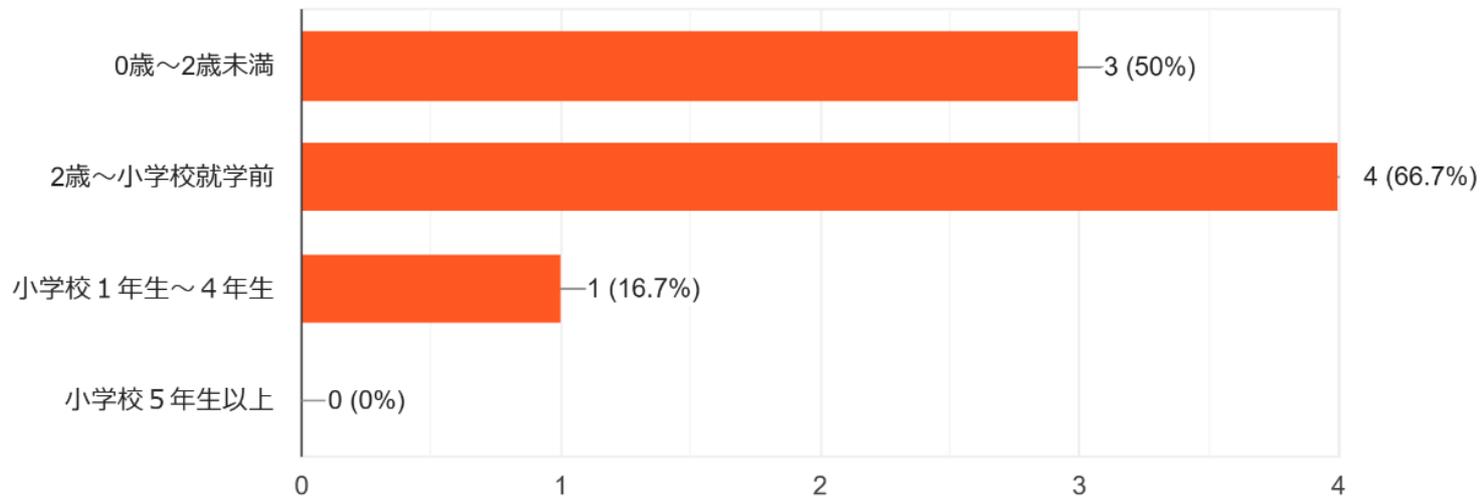
# 来場者数

| 日付           | 子どもの数 | 中学生以上<br>~大人の数 | 合計人数 | グループの<br>数 |
|--------------|-------|----------------|------|------------|
| 12月2日<br>(土) | 10人   | 10人            | 20人  | 7組         |
| 12月3日<br>(日) | 14人   | 19人            | 33人  | 11組        |

# アンケート結果

お子様の年齢を教えてください。（2人以上の場合は、複数回答可）

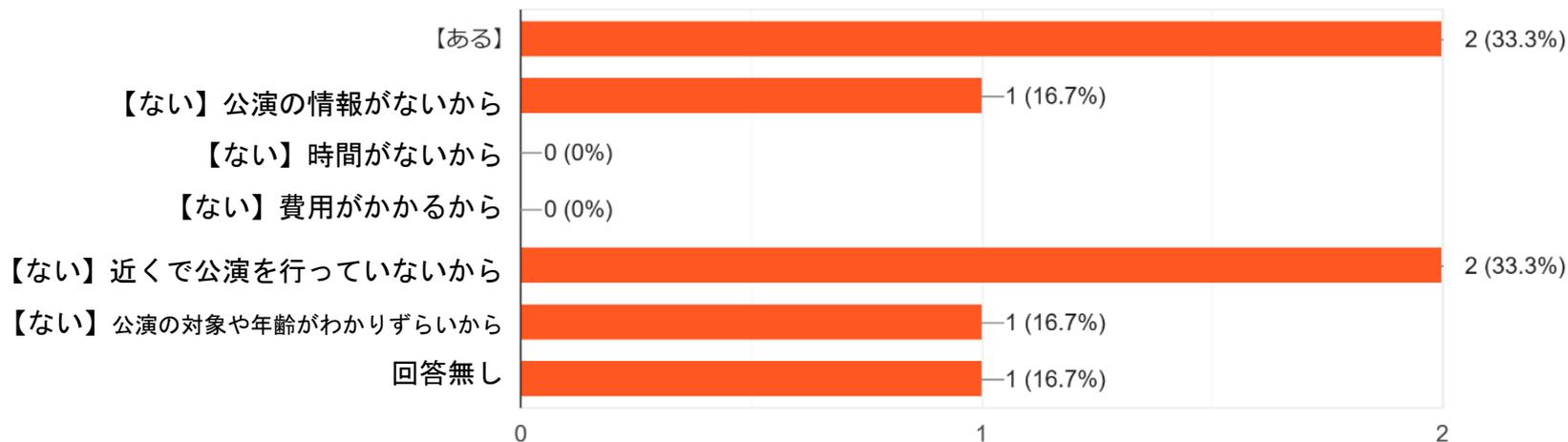
6件の回答



# アンケート結果

演劇やダンスなどの公演を、お子様と一緒に鑑賞する機会がありますか。（複数回答可）

6件の回答



# アンケート結果

## 今回の公演はいかがでしたか

キッズスペースでの公演だったので、子どもがじっとしていなくてもよく、気兼ねなく楽しめた。間近でパフォーマンスが見られたのも嬉しかった。

間近で見ることができたし、お2人の世界に触れられて楽しかった。朝の音が表現されて、子どもたちにも身近に感じられた。

多くの人が出演するミュージカルは見たことがあったが、2名の公演は見たことがなくコンテンポラリー的で不思議な世界だったため、おもしろかった。

いろんな音を全身を使って表現していておもしろかった。

あまり見たことのない演目でおもしろかった。

孫がとても喜んでいた。

# アンケート結果

## 公演を観て、お子様の反応はいかがでしたか

子ども達2人とも声を出して笑っていて、とても楽しそうだった。近くで見られたのもよかった。

5歳の孫は、音の動きと寝るところ起きるところがとてもおもしろかったと喜んでいて。  
3歳の孫はダンスと歌にとても喜んでいて。

なっちゃんを頑張って起こすところで5歳児が爆笑していた。

内容を完全に理解はできないようだったが、楽しんで、リズムにのっていた。

見ないのかなと思っていたら、後ろでのぞいたりして面白かった。  
はいはいしている0歳の子も連れてきても良かったかなと思った。

# アンケート結果

本公演について、ご感想やご要望がありましたらご自由にご記載ください

子どもと一緒に楽しめてよかった。  
キッズスペースで無料で、赤ちゃんがいても気にせず、見られてよかった。

マルタスという場所が、足が運びやすかった。  
小さい子から一緒に見られる公演はありがたかった。

質問コーナーや解説など、公演後にアフタートーク的なものがあつたら面白いと思った。  
また参加したい。

# 公演の様子



# 公演の様子



# 公演の様子



# 所感

- ・オノマトペを主軸としての作品づくりは初めての試みであったが、予想よりも受け入れてもらったのではないかと感じた。
- ・オノマトペの多種多様性をもっと伝えられるよう、次回は公演の頭に簡単なワークショップのようなものを盛り込む（下記参照）ことで、子どもたちにより身近に感じてもらえるような可能性の見える公演内容であった。

## ワークショップ案：

- ・「朝どんなことをするか」から始まり、動作や仕草をアイデア出ししてもらい、それは一体どんな音になるかを考える。
- ・「ここ（会場）に来るまでにどんな音がしていたか」を参加者に聞き、どこかのタイミングで公演内容に盛り込む。